

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 15 日現在

機関番号：24601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24792408

研究課題名(和文) 前立腺全摘出術後患者と家族への排尿障害とセクシュアリティの看護ガイドラインの開発

研究課題名(英文) Development of the nursing care guideline on the urination disorder and sexuality of the patients after radical prostatectomy and for their families.

## 研究代表者

升田 茂章 (Masuda, Shigeaki)

奈良県立医科大学・医学部・講師

研究者番号：80453223

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：前立腺全摘出術を受けた患者とケアを実施している看護師に、排尿障害とセクシュアリティに関する工夫や必要と考えられるケアについてインタビューを行った。患者は排尿障害に対する工夫を自ら行い、家族もその工夫を見守りながら支えていた。またセクシュアリティについてはライフステージやそれまでの捉えによって対策が異なっていた。看護師は排尿障害に対する対策に関し、患者と共に具体的な生活での工夫を考えていたが、セクシュアリティに関しては患者から質問があった場合に対応をしていた。前立腺がんに関する知識と排尿障害の対策例、セクシュアリティに関して患者と家族へどう関わるかについてガイドライン案を作成した。

研究成果の概要(英文)：We have conducted interviews with patients who underwent radical prostatectomy and the nurses providing care for these patients concerning ideas and cares required in terms of urination disorder and sexuality. The patients were observed to put their ideas on how to handle urination troubles into practice, and their families also looked after and supported the patients. As for sexuality, the patients took different measures based on their life stages or how they view their sexuality. With regard to measures for urination disorder, the nurses were trying to come up with practical ideas useful in actual daily life together with their patients. Concerning sexuality, the nurses handled questions when asked by their patients. We have drafted a guideline that provides knowledge on prostate cancer and introduces ideas on handling urination disorder and suggestions on how to deal with sexuality when communicating with the patients and their families.

研究分野：医歯薬学

キーワード：排尿障害 セクシュアリティ 前立腺がん 家族看護

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、前立腺がんにより前立腺全摘出術を受けた患者とその家族に対し排尿障害とセクシュアリティに関する看護ケアガイドラインを開発し、患者のみならず家族に対しても、排尿障害とセクシュアリティの変化に対して看護ケアが実施できるよう具体的看護介入方法を開発する研究である。

前立腺がんは、米国ではすでに男性がんの中で最も高い発生率となっており、日本でも近年急激に増加傾向にある。現在、男性のがん罹患率の約 10% を占めており、今後発生率が第 2 位となる(黒石, 2004)と考えられている。前立腺がんの治療方法は、Jewett Staging System 分類の病期 A、病期 B では、根治術として前立腺全摘出術等の手術療法が行われている。また、病気の進行度は比較的遅く、病期 A・病期 B で治療を受けた場合の 5 年生存率は、60~80% 以上である。

・前立腺全摘出術後患者と家族の排尿障害とセクシュアリティに関する研究の動向と課題

前立腺全摘出術後の合併症として、尿道括約筋への機械的損傷による排尿障害と勃起神経切断や機械的刺激により性機能障害を起こす可能性が高い。実際、術後 60% 以上の患者が性機能障害 (Catalona, 1993、Potosky, 2004) を経験し、前立腺全摘出術 5 年後生活に尿取りパッドが必要であるという患者がいるという報告 (Potosky, 2004) があるように、性機能障害や排尿障害を抱えながら日常生活を送る人が多い。前立腺がん治療により性機能障害となった患者の約半数が ED 治療を希望している (中村, 2005)。さらに、前立腺がん治療の合併症である、排尿障害や性機能障害のようなプライベートな問題を伴う相談について、3 割以上の患者が患者相談やカウンセリングのような相談窓口での対応を希望しているという報告や、前立腺がん患者とそのパートナーのセクシュアリティに関するニーズに医療側は答えてくれないと感じている (Letts, 2010) という報告があるように、前立腺全摘出術を受けた患者とその家族は、治療後の排尿障害やセクシュアリティに関して、相談窓口の開設やカウンセリング等の看護援助を求めている。このように前立腺全摘出術後患者が体験する排尿障害やセクシュアリティは夫婦関係やパートナーとの人間関係にも影響を与えることが考えられるが、そのニーズは特定されておらず術後の生活の質を高めるためには、看護師が患者と家族に対し排尿障害とセクシュアリティに関する看護ケアを積極的に行う必要がある。これからのことから、患者への介入のみでは、患者のニーズを満た

すことは出来ず、且つパートナーの不安等の軽減が難しいことが考えられる。医学の進歩により、勃起神経移植術や内服による ED 治療など新しい治療方法が行われているおり、新治療開発と共にがん患者のセクシュアリティに対する看護師の役割は大きくなっている。

以上のことから、排尿障害やセクシュアリティに関し、患者の経験と家族の経験を明らかにし、看護師が家族への看護介入を困難にしている要因を明らかにし「前立腺全摘出術を受けた患者と家族に対する排尿障害とセクシュアリティに関する看護ケアガイドライン」を開発することが必要であると考えた。

## 2. 研究の目的

本研究は、「前立腺全摘出術を受けた患者とその家族に対する排尿障害とセクシュアリティに関する看護ケアガイドライン」を開発することを目的とする。

## 3. 研究の方法

### (1) 前立腺全摘出術患者と家族に必要な看護ケアの明確化

既存の文献と前立腺全摘出術を受けた患者と家族が退院後に日常生活で起こり得る問題点や困難を予測しインタビューガイドを作成する。

#### 研究対象者

前立腺全摘出術を受けて退院後 1 か月以上経過した外来通院患者

前立腺全摘出術を実施している病院をピックアップし、各病院の倫理審査委員会から許可を得て実施する。排尿障害及びセクシュアリティに関して患者と家族が看護師に求める看護ケアを明らかにするため、で作成したインタビューガイドを用いて半構成的面接法で面接を行う。

### (2) 前立腺全摘出術患者と家族への看護ケアの実際

既存の文献と前立腺全摘出術を受けた患者と家族が退院後に経験する日常生活での不具合や困難を予測したケアが入院中に行われているのか看護師を対象としたインタビューガイドを作成する。

#### 研究対象者

前立腺全摘出術患者とその家族をケアする看護師

協力の得られた病院を中心に倫理審査委員会から許可を得て実施する。(2) で作成

したインタビューガイドを用いて半構成的面接法で面接を行う。

### (3)前立腺全摘出術患者と家族の排尿障害とセクシュアリティに関する看護ガイドライン案の作成

インタビューから明らかになった、患者と家族が求めるケアと看護師のケアの実際から看護ケアガイドライン案を作成し、泌尿器科医師、泌尿器科医療に詳細な知識を持つ看護師・研究者からスーパーバイズをうけガイドラインの洗練化を行う。

### (4)倫理的配慮

本研究は、A 大学看護研究倫理審査委員会の承認を得た後、実施した。研究協力施設および対象者に対して、文書及び口頭にて研究の主旨・方法、危害を加えられない権利、自己決定の権利、プライバシーに関する権利について説明したうえで、研究参加の意思を確認した。面接はプライバシーを守るため個室とした。

## 4. 研究成果

### (1)前立腺全摘出術患者と家族に必要な看護ケアの明確化

前立腺全摘出術患者と家族に必要な看護ケアの調査に関するインタビューガイドの作成

前立腺全摘出術を受けた患者と家族に対し、それぞれ、インタビューガイドを作成した。前立腺全摘出術を受けた患者のケアに関する先行研究と泌尿器科系の雑誌および排尿障害やセクシュアリティに関する図書、男性直腸癌患者の手術後のセクシュアリティの変化に関する論文等から、インタビューガイドを作成した。

#### 研究対象者

研究対象者は、前立腺全摘出術を受けて退院後1カ月以上たっている外来に通院している患者とした

#### インタビュー調査の結果

インタビュー内容は、排尿障害とセクシュアリティに関する身体的変化や、家族間の関係性の変化、それに伴う困惑した体験などが含まれた。

排尿障害やセクシュアリティの変化に対する対応には、発病時のライフステージや、それまでの自身の排尿パターンやセクシュアリティに対する捉えなどにより個人差が認められた。

排尿障害の対策には、患者自身はあらかじめウォーキング等、運動時には尿とりパットを大きなものを選択するなど工夫をしてい

た。家族は、患者の工夫を尊重し、見守るように支えていた。セクシュアリティについては、年齢やそれまでのセクシュアリティの捉えや生活によって異なるが、男性としての自尊心の低下、パートナーに対する負い目や気遣いが述べられていた。

### (2)前立腺全摘出術患者と家族への看護ケアの実際について

前立腺全摘出術患者と家族への看護ケアの実際の調査に関するインタビューガイド作成

既存の文献と前立腺全摘出術を受けた患者と家族が退院後の日常生活で起こりえる問題点や困難を予測したケアが行われているのか看護師を対象としたインタビューガイドを作成した。インタビューガイドの内容としては、入院中の排尿パターンを理解と退院後の予測。排尿記録表等の活用方法と、排尿障害をどうとらえているかを確認しているか、パートナーとの関係性について確認していることはあるのか等の内容を含めた。

#### 研究対象者

前立腺全摘出術患者とその家族をケアする看護師

#### インタビュー調査の結果

臨床経験年数も影響していると考えられるが、「患者への排尿障害に対する看護介入」のうち日常生活での排尿障害の調整方法や、「尿失禁による皮膚トラブル」や「水分摂取の調整」「パットの選択」「今後の予測」等の対処方法は、実施することができていた。その際、患者がどのように排尿障害を捉えているかを確認し、患者の生活に合わせた改善や工夫について一緒に考えるようにしていた。家族へは、患者へ説明していることに一緒に説明内容を説明し、その反応を観察していた。しかし、セクシュアリティについては、看護師からは積極的に介入はせず、患者自身からの質問があった場合以外は見守ることを選択していた。

### (3)前立腺全摘出術患者と家族の排尿障害とセクシュアリティに関する看護ガイドライン案の作成

前立腺全摘出術後患者と家族の排尿障害とセクシュアリティに関する看護ガイドライン原案の作成

インタビューから明らかになった結果をもとに、患者と家族が求めるケアと看護師のケアの実際から看護ケアガイドライン案を作成した。内容は、「排尿障害に対する患者と家族の捉え」や「患者の排尿障害への工夫」、家族への介入方法として「患者とパートナー

の情緒的支援」や、「役割の変化」に対する介入、実際の対処行動について記載した。

医師と連携しセクシュアリティに関して介入ができるように、診察で性機能調査等を実施する予定があるかどうか確認することや患者自身が ED 外来の受診希望または予定があるのか確認する等、医療チーム内で患者や家族の希望について情報共有できるようにガイドライン内に記載した。

#### ガイドライン案の洗練化

泌尿器科医師、泌尿器科医療に詳細な知識を持つ看護師・研究者からスーパーバイズを受けガイドラインの洗練化を行う。

#### (4)今後の課題

今後作成した前立腺全摘出術後患者と家族の排尿障害とセクシュアリティに関する看護ケアのガイドライン案に関して、さらに実際に活用できるようにフォーカスグループインタビューを実施し、ガイドラインの洗練化を行う予定である。

また、本研究開始時には、あまり実施されていなかった手術支援ロボット「ダヴィンチ」による前立腺全摘除術が 2012 年に保険適応となり現在手術件数が増加している。今回は研究対象者からは除外したが、排尿障害やセクシュアリティの変化の出現の仕方が異なる可能性があり、今後術式の違いが退院後の生活に影響するのか検討し、本研究で得られた結果と合わせて、ガイドラインの改良を継続的に行っていく必要がある。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

取得状況(計 件)

〔その他〕

ホームページ等

### 6. 研究組織

#### (1)研究代表者

升田 茂章 (MASUDA SIGEAKI)

奈良県立医科大学 医学部看護学科

研究者番号：80453223

#### (2)研究分担者

( )

研究者番号：

#### (3)連携研究者

( )

研究者番号：